

〔名物六帖〕人事五、鑊ヒナツリ人寒食則有假花鷄繖鑊子堆蒸餅餛飩。

〔雜遊の記〕伊勢の神宮には昔より女子のもて遊び草に、小米びいなどて、ちいさき男女の人形を作り、宜岐キとて衣服を著せ、家臺の上に居置て、夫婦むつまじき粧ひをなして遊ぶと聞侍る。

〔骨董集〕上編下前、伊勢の小米籾。おのれ岩瀨。此事を伊勢山田の某氏にとひしに、伊勢山田あ

たりに、古へより傳へて、女兒平日の雜遊びに、小米籾とて、五六分許の紙びなを造り、その衣服に

するものをき、といひ、巾一寸許、長さ二寸許のちいさき鳥の子などの紙に、丹青もて文様をい

ろどり、或は行成紙などをちひさく裁て用ひ、或はちいさき紅絹のきれなどを添て、衣領つきを

と、のふるもあり、さて鳥の子などの巾ひろき一ひらの紙に、座敷客間、居間臺所など、家のさし

圖をかき、小米びな夫婦、或は婢女奴僕などもつくりて、そのさし圖の所々に粘してつけ置、人家

平日のさまむつまじき體をまねびて、常のもて遊びにまたるよし、今より八十年許前享保の末

までは、此事ありしが、今はたえて小米びなといふ名をだにまれる人稀なり、年八十餘の老人に

あらではまらずとぞ答られける、童のもて遊びも、古はかく質素にてありし也、源氏の紫のうへ

のひいな遊びに、ちびさき屋形をつくり、ひいなをまするてもて遊び給ひしことなど、おもひあ

はすれば、此小米びなは、古の民の童のひいな遊びにて、それが享保の末までも傳りしなるべし、

ひいなは、もとちひさき義なれば、小米びなは、よしある事ぞかし、中今も伊勢の山田あたり

にて、孩兒にいろどりし物を見せて、き、とをしへ、又は端午の幟などを見せて、幟き、と

いふ言残り、うつくしき衣服をき、め、ともいふよし、き、といふは、すべてうつくしき物をさ

していふ言か、この言義は知がたし、

〔ひな人形の故實〕草ひな。九月九日髪葛子體略。女子ひなくさをとつて、籾のかみをゆひ、平日

のもてあそびとす、むかし民のひなは、此るいのよし、